

Q&A 10問10答

Q1 自分の性格をひとりでい表すと?

温厚で楽観的。

Q2 弱点を1つ教えてください。

やや人見知りなところがある。

Q3 最近うれしかったことは?

MLBワールドシリーズでドジャースが優勝したこと。本拠地のロサンゼルスはかつて留学した思い出の地。当時は野茂英雄投手がまだ現役で、試合観戦にもよく出かけた。

Q4 今はまっているものはありますか?

多忙のため、最近は行けていないが、離島巡り。与那国島や南大東島などを訪れた。

Q5 タイムマシンがあったら行きたいの過去? 未来? その理由は?

未来が分かると面白くないので過去。大学時代が思い浮かんだが、戦国時代もいい。

Q6 人生で最も影響を受けた人は?

野口英世。同じ名前をいただいており、親は医者になって欲しいと名付けたようだ。

Q7 日課はありますか?

毎日、最低1万歩歩くことが目標。時間に余裕があるときは、一つ手前の駅で降り、50分ほど歩いて帰宅したりしている。

Q8 人生最後に食べたいものは?

餃子

Q9 今一番会いたい人は誰ですか?

特にない。

Q10 病院トップとしてふさわしい素養は?

決断力

● 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院

2025年4月、国立感染症研究所と統合「国立健康危機管理研究機構」(JIHS)へ



1868(明治元年)年、戊辰戦争の傷病兵を治療するため、江戸城山下門内に設置された兵隊仮病院がルーツ。その後、東京陸軍病院、国立東京第一病院などを経て1974年、国立病院医療センターとなり、93年、ナショナルセンターとして組織統合された国立国際医療センター、2015年から現名称に。18年、創立150周年を迎えた。

新機構は感染症総合サイエンスセンターというコンセプトで活動しますが、センター病院はその一部門としてこれまでと変わらず総合診療を行います。これからも高度な急性期病院、また、研究にも強みを持つ総合病院として、国民の健康の実現に向かって邁進します。

“ 全国民の健康実現に向けて邁進する ”



PROFILE

みやざき・ひでよ ● 東京大学薬学部、同医学部卒。東京大学泌尿器外科学講師、帝京大学泌尿器科准教授を歴任。現在は泌尿器科診療科長、第一泌尿器科医長を兼務。専門分野・主な認定資格として尿路結石症、前立腺肥大症、泌尿器がん、日本泌尿器学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会腹腔技術認定医、ロボット手術プロクター(膀胱・前立腺、副腎、腎)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

—— 病院長に就任して間もなく半年です。

宮崎 仕事内容がそれまでに比べかなり変わり、まったく違う職業に就いたようですね(笑)。アジア諸国をはじめ、海外出張の機会も多くなりました。

意識していることは、課題や問題が生じたとき、関係当事者それぞれの話に耳を傾け、自分は一歩下がって冷静に判断することです。そして、今後どうしていくべきか、ポジティブな解決策を探るよう心がけています。

病院全体を見わたさなければいけない立場として、現場の方たち

か、糖尿病などの生活習慣病の治療にも注力しており、地域に欠かすことができない総合病院でもあります。24年6月には、CTや血管造影を行いながら手術ができるハイブリッド手術室を整備し、順調に稼働しています。

最先端の高度医療も行っています。たとえば、希少がんの腹膜癌粘液腫に対して減量手術を行っている、国内でも極めて限られた施設の一つです。このほか、顕微鏡下でのスーパーマイクロサージャリー(超微細血管吻合)を用いた再建術を特色とした形成外科、対応できる機関が非常に少ない、レーザー内組織照射法による血管腫の治療を行う歯科・口腔外科などが

と接したり話したりする時間をつくりたいという気持ちもあります。しかし、標榜診療科43の大きな組織で、なかなか思うようにはいきません。その点、当院には副院長の先生が5人いらっしゃいます。信頼する副院長の先生から情報を上げていただき、自分は前面に出ていかないという姿勢で臨んでいます。

2025年4月の新組織への移行に向け、職員の皆さんへの情報発信にも一層力を入れていきます。職員満足度を上げていかなければ、医療の質を維持するのは難しいですし、患者さんに安心して受診し

—— JIHS発足に向けた準備の進捗を教えてください。

宮崎 新生・JIHSのシンボルとなるロゴマーク(1ページ写真参照)が、職員から寄せられた186件のデザイン案から選ばれました。地球とシャトルを意味する青い円に日の丸をあしらひ、円内のクロスは2つの組織が統合することを表現しています。素晴らしいロゴができたと思います。素晴らしい現在、実務者による「設立準備作業推進会議」を週1回のペースで開催し、準備作業を急ピッチで進めています。当面、異なる組織

特筆されます。外国人医師が見学・臨床修練に訪れることも多いです。

風土を調和させていくことと、まだ十分とは言えないJIHSの認知度を高めていくことに力を注いでいきます。

国立感染症研究所とは、コロナ禍においてもファースト・フューハンドレッド・スタディ(公衆衛生上の隔離期間など初期対応において求められる情報)をホームページで発信するなど、さまざまな活動を協働して行ってきました。今後は、新たなパンデミックが起きたときにワクチン開発なども求められます。基礎研究から臨床機能まですべて備えており、一貫貫で対応できる体制を整えていきたいと思えます。

さらに、国内外の感染症ネット

—— センター病院の特徴、強みを教えてください。

宮崎 国立高度専門医療研究センターの一つです。ナショナルセンターのなかでは総合病院として、総合医療、国際医療協力、感染症・免疫疾患・糖尿病・代謝性疾患について新しい治療法や治療技術の開発を行うとともに、これらに関する高度な専門的医療・看護を実践しています。

国内に4カ所しかない「特定感

染症指定医療機関」です。中核と

なる国際感染症センターは、診療・人材育成・情報発信・研究開発を通じて感染症の脅威や影響に負けない社会づくりに貢献しています。横浜港のクルーズ船クラスター対応の支援をはじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大当初から、軽症・重傷を問わず患者さんを積極的に受け入れた感染症内科は多くのマスコミに取り上げられ、注目を集めました。

感染症だけでなくありません。年間1万台以上の救急車を受け入れている救命救急センターがあります。地域がん診療連携拠点病院としてがん診療に力を入れているほ